ころころ通信

山々が黄や茜に
美しく染まり、
朝夕の冷え込みも一段と
厳しくなってきました。

きのこ柿 秋刀魚など
秋の味覚に舌鼓を打ちつつ、
そろそろ冬支度の
時期でしょうか。

11 月

第二のぞみ園まつり

恒例の第二のぞみ園祭りを10月13日に開催しました。

当日は晴天に恵まれ、第二のぞみ園のシンボルである楠木前の園庭に、祭りの縁日をイメージし、いくつかの出店を開きました。

地域からは日向保育所、上芳養小学校、上芳養婦人会の皆さんが特別に花を添えて下さり、舞台発表では、それぞれ歌・楽器演奏・ダンスなどで祭りを多いに盛り上げていただきました。

利用者の方もたくさんの来客者に会えるこの祭りを楽しみにしており、焼きそば・からあげ・ジュースなど好きな物を購入しながら舞台発表を鑑賞。普段みんなと一緒に過ごすのが苦手な女子利用者Tさんも、終始笑顔で祭りを満喫していました。祭りの最後には皆様への感謝を込め、紅白の餅まきで幕を閉じることができました。

第二のぞみ園祭りを盛大に行えましたのも、地域の皆様、ボランティアの方々、その他多くの関係者の方々のお陰と、心より感謝致しております。今後も地域との交流を目指し、第二のぞみ園祭りを盛り上げていきたいと思っておりますので、今年同様、お力添え賜りますようお願い致します。

（行事部）

保護者手記～わたらせ温泉旅行

10月下旬、総勢10人で本宮へ出発しました。絶好の行楽日和で、暑くもなく寒くなく、素晴らしいお天気でした。山の紅葉はまだちらほらでしたが、車の量も少なく気持ちいいドライブを楽しみました。２回目のトイレ休憩は近露で取り、ここにはお土産屋さんや食堂が並んでいて、観光客で賑わっていました。おいしいソフトクリームのお店があると聞いて、「食べてこよう」と言っていた利用者さんもいました。私の入ったお土産屋さんでは、面白い企画をしていてレジのお姉さん達が魔女の恰好をして、「ハロウィン！」声をかけてくれました。そしておまじないの合言葉「トリック・オア・トリート！」を言うと、お菓子を一枚くれたのです。休憩を済ませて、一路目的地の『わたらせ温泉』へ。道中には、昨年の台風の爪痕がまだ生々しく残っていて心が痛みました。

ホテルささゆりには丁度12時に到着。部屋には既に食事の用意がされていて、早速御馳走に舌鼓を打ちました。食事を堪能した後は、楽しみのカラオケで、歌う人あり、嬉しそうに音楽に合わせて体を揺らし調子を取ってニコニコする人ありと、それぞれカラオケを楽しみました。その後、帰路に着き、園には予定通りの４時半に到着。子供との想い出がまた一つ増え、楽しい旅を有難うございました。

支援者の為の自閉症学習会に参加して

８月より毎月１回、和歌山県発達障害者支援センター・ポラリス主催の「支援者の為の自閉症学習会」に参加しています。８回シリーズになっており「自閉症とは?」という基礎的な講義から、実際に視覚支援としてスケジュールを立て実践していくところまで、幅広く学ぶことが出来る良い機会になっています。

９月まで２回参加していますが、自閉症の方への支援の第一歩は対人関係や言語・コミュニケーション、想像力などの違いを認識し、その人その人の感じ方や理解の仕方を理解することであると先生はおっしゃっていました。そして自閉症の方の基本的な問題として、周りからの情報の意味を理解するのが難しいということがあります。その為に私たち支援者は、自閉症の方が日々暮らしやすくしていけるよう、様々な配慮をすることが必要な支援となっていきます。それが「構造化」というもので、今現在は「視覚支援」という言葉の方が多く使われているようです。利用者に「今、周囲は何を要求しているのか、期待しているのか、次にどんなことが起こるのか」などということを理解しやすいよう、その人の能力に合わせて環境を再構成していくことが、私たち支援者の大事な役目であると学びました。

私たちにとっては何気ないことでも、自閉症の方は理解が難しく、その為に不安感を抱きながら日々過ごしているかもしれない。そう考えると、私たち支援者が利用者の方を理解しその人その人に合ったきめ細かい支援を働きかけることで、不安を軽減し暮らしやすい環境を提供できるのだと改めて感じました。

「自閉症の人が、自閉症のまま幸せに生きる」というショプラーの言葉を研修で聞きました。その言葉通り、幸せな生活が送れるよう支援者として今回の研修で多くのことを学び、今後の支援に生かせるよう３月まで精一杯学んでいきたいと思います。

あおぞら班外出

前日大荒れだった天気も快晴になり、紀州備長炭公園でバーベキュー。先組と後組に分かれて出発です。

先組は先に備長炭公園へ行き、用意やお肉を焼く係。後組はおにぎりとドーナツを買う係。後組が着く頃にはお肉が出来上がる直前でした。

いつも小食の人も焼き肉になったら自らお皿を持ってきて、すごい勢いで食べてくれます。やっぱり外で食べるご飯は、いつも以上においしく感じました。バーベキューが終わってからは、中辺路の公園に移動しました。移動中に窓の外を見ると、周りは山に囲まれ標高も高く、雲がとても近くに感じました。秋の紅葉や春の桜の季節になったら絶対綺麗だと思うので、またみ

んなで見に行きたいです。
公園に到着し、ドーナツとジュースを食べ、（お腹いっぱいだったはずが、デザートはやっぱり別腹でした。）帰路に着きました。

上芳養中学校交流会

10月19日（金）、上芳養中学校の皆さんが交流の為に来園されました。まず一年生（14名）の皆さんがオリエンテーションの後、施設内を見学され、その後、あおぞら班・おしゃれ班・就労班・はばたき班に分かれて体験交流をしました。
あおぞら班には4名の方が参加され、まずは自己紹介です。あおぞら班は重度の方が多く、自分で名前を言える方が数名しか居ません。それでも名前を呼ぶと手を上げたり立ち上がったりして自己主張していました。全員でラジオ体操をした後、輪投げ大会を行いました。まずは個人戦です。4試合した所で優勝は20点を獲得した中学生の福島君で

した。あおぞら班代表でIさんが再挑戦を申し出て再試合をしたところ、なんと18点を獲得し勝つ事が出来ました。和やかな輪投げ大会もあっという間に過ぎてしまい、場所を食堂に移動して、次は生徒さんたちの発表です。練習を積み重ねてきたと思われる素敵な音色のリコーダー演奏と、ハンドベルの発表です。ハンドベルも一生懸命取り組んでいる姿に心を打たれ、利用者の皆さんも聞き入っていました。最後は園庭に移動し、三年生の皆さんが体育祭で発表したというよさこい踊りを見せて頂きました。揃いの法被に身を包み、鳴子の音もピタリと合わせ、迫力あるよさこい踊りを元気いっぱいに踊って頂きました。各学年の代表者の方から、「見てくれて有難う」と言う言葉がありましたが、いえいえ「来て頂いて有難う。見せて頂いて有難う。」そんな思いでいっぱいになりました。
これからも勉強にスポーツにいっぱい頑張って、又第二のぞみ園に遊びに来て下さい。福祉の分野に興味を持ち、少しでも理解して頂けたら嬉しいです。

のんびりデイサービス

今日は、ハンバーガーを買って、ピクニックに出かけました。
まずは、ハンバーガーのメニュー選びです。メニューを見て各自食べたい物を、時間をかけて選びます。
「なんにしよう、迷うわぁ」「○○セットもええけど、△△セットもええなぁ」等など、あれやこれや盛り上がりながら、好きなセットを頼んでいました。しかし、仕舞には、選びきれずに2セットを頼みたいと言いだす人も・・・。2セットはカロリーオーバーで叶いませんでしたが、ビッグバーガーのセットで納得してくれました。メニューが決まったところで、ハンバーガーを発注し、ショップで受け取り、車に乗せると・・・なんといい匂いでしょう。生つばをゴクン、との飲み込み、「食べたい!!」とはやる気持ちを我慢し、公園へ向かいます。

到着後は、海岸でさっそくハンバーガーを分け、各々が水平線を眺めながら食べていると、海岸沿いに電車が通り過ぎていきます。心地よい風と波音と共に、のんびり過ごすことができました。食後は砂遊びや貝殻ひろいをしたり、と、のんびり過ごしました。

平日は忙しい人が多く、休日に自然の中で過ごすことで、みんなの表情も和らいでおられ、職員も癒されました。

秋を探して

10月下旬、月一回利用者が大変楽しみにしている行事であるリフレッシュで、紅葉見物と題し、午後から利用者6名・職員3名で出掛けました。短時間で行ける場所は、どこがいいかなぁ、と車中で山々の景色を見渡すも緑一色です。その時、車窓から1本の柿の木が目に入りました。柿の木には橙色の実と色鮮やかな葉がついています。こんな身近に小さな紅葉がありました。

平草原に着き、秋日和のぽかぽかとした日差し中、ティータイムをとりました。帰路の車中は大きな笑い声が絶えず、短時間ではありましたが、利用者の方々もリフレッシュできたのだろうと嬉しく思いました。

次回のリフレッシュも楽しみにして下さいね。

半年経って

学校を卒業し、第二のぞみ園で働かせて頂いて6カ月が経ちます。栄養士の職種で採用されたのですが、先ず何よりも調理を全うし、利用者さんの栄養について知ることが第一義として、現在、調理の実践をしています。

入って間もない時は、環境に慣れようとするだけで精一杯の毎日でした。経験も知識もなく知らない事ばかりで、新しく知ることが沢山あります。想像以上に時間に追われる仕事で、その環境の中で仕事を教えて頂けることにとても感謝しています。教えて頂いたことを実践しようとしても失敗してしまう時があり、失敗してへこんでしまうのですが、「失敗して覚えていくのだから失敗してもいいよ」と先輩達が広い心で受け止めてくれます。その言葉を聞くと諸先輩方に感謝すると共に、次は失敗しないように頑張ろうという気持ちになれます。

今月から少しずつ栄養士としての初歩事務を行うようになり、昼食を棟で食べることで、利用者さんと接する機会が以前より多くなりました。利用者さんの好き嫌いや食形態は分かっているのですが、それ以外のことはまだよく分かりません。なので、利用者さんひとり一人の個性を知って、利用者さんの思いが分かるようになりたいと思っています。

（調理部　村上）

デジタル無線、助成頂く

～和遊協社会福祉事業協力会様より～

震災では電話等の連絡手段を失い、大変不安であったとの話を聞きました。当施設でも緊急時の連絡手段を検討し、デジタル無線の助成を和遊協社会福祉事業協力会様にお願いしたところ、この程、助成を頂けることになりました。日々の連絡手段としても活用させて頂き、利用者の安全に、より一層力を注いでいきたいと思っています。本当に有難うございました。